

おりじん

[O·R·I·J·I·N]

2013年 冬号

発行／(株)四季工房「おりじん」編集室
〒963-0115 郡山市南二丁目84番地
TEL024-937-6351 FAX024-937-6341
<http://www.sikikobo.co.jp>



(株)四季工房 代表取締役 野崎 進

チームミャンマーがいよいよ動き出します。

ミャンマー コスミック社のカフェテラスで。コスミック社社長(右から2人目)とその家族、私の左は現地の通訳。

初めてミャンマーを訪れたのは10年前、ふらつと行った個人旅行でした。今回仕事をはじめることになったきっかけは2011年11月、タイで日本食レストランチェーンを手掛ける社長とミャンマーの実業家(コスミック社社長)が共同出資でヤンゴン市内に日本食レストランをつくるという話がきっかけでした。知り合いのデザイナーがその設計を手掛けていて、この話を聞かせてくれたのです。大いに興味を持った私は「連れて行って!」とお願いしました。

実はそれまでもミャンマーで仕事をしてみたいという漠然とした思いがあったのです。その後2度同行させてもらいました。2度目の訪問の際、夕食の席上でタイの社長が「日本で住宅会社をやっている野崎さん」とミャンマーの社長に紹介してくれました。すると「ミャンマーで家具を作ってみないか」と誘ってくれたのです。それは唐突で、しかし全ての始まりでした。

家具はそれまでもWSSAやファニチャー木こころ(新宿)で手掛けていることもあり、すぐに事業計画を立て、その後ミャンマーに6回通いました。また今年5月にはミャンマーの社長とその友人が来日し、私共の会社を見学してくれました。そこで一気に信頼関係が深まり、その後のミャンマー訪問で合併事業スタートの調印に至りました。2011年の再訪から約1年後のことです。

(次ページへ続く)



鈴木農場とひかりファームの収穫物を詰め合わせた彩豊かな「野菜セット」が出来上がりました。

ふじた農園(藤田浩志さん・熱海町)

鈴木さんを紹介してくださったのは、昨年四季工房で家を建ててくださったOBの藤田さんです。藤田さんは「あおむしくらぶ・郡山ブランド野菜協議会」の広報担当・事務局長を務め、鈴木さんとともに活動されています。



藤田さんはプロの農業者として高い志を持ち、野菜ソムリエとしても広く活躍されています。



「あおむしくらぶ」の一般参加の農業体験イベント

◆あおむしくらぶ・郡山ブランド野菜協議会 ホームページ
[HP] <http://aomusicclub.jpn.org/>

今ひかりファームはステージアツプを図っています。7月に農業生産法人として設立するとともに、福島県指導農士の肩書を持ち、広く活躍している鈴木光一さん(郡山市)を指導者に迎えました。平田加工場と農業と2足のわらじで頑張ってきたスタッフにとつては大きな存在です。鈴木さんの指導は既に何回も実施され、光合成菌を使った無農薬、有機栽培を進める

土壌づくり、効率的な労働力の見直し、作付け計画と販売計画の具体化など着々と進んでいます。農業は最もステイタスの高い職業と言いつける鈴木さん、信念が溢れ「実践してきたノウハウをそのままひかりファームに伝えます」と力強いお言葉をいただきました。来春から始まる本格的な作付け、彩り豊かで美味しい野菜がファームを賑わしてくれることでしょう。

鈴木光一さんのプロフィール

大槻町の農家の3代目。農業への思い、野菜作りの情熱は誰にも負けないつもりでやってきました。しかし情熱だけでいい仕事はできません。野菜作りの技術はもちろん、品揃えと物流の関係などには科学的な視点も必要です。平田は農業人口も多く、ひかりファームの光合成菌を使った無農薬栽培は大きな可能性を秘めています。



◆鈴木農場 ホームページ [HP] <http://suzukiitou.main.jp>

編集後記

鈴木光一さんにお話を伺った後、農場で採れた野菜を見せていただいた。特に目を惹かれたのは紅、紫、黒、緑と色とりどりの大根達。ふつくと健康で美味しそう。

さてどう料理しようか。大根を齧ってみると歯触りも味もそれぞれ違う。個性を生かすため皮付きのまま固ゆでにしオリブオイルでローストした。味付けは塩と胡椒のみ盛り付けてみるとまるで花畑のように美しく野趣溢れる味になった。

野菜の力はすごいと改めて見直した。近い将来、ひかりファームでも生命力溢れる野菜が採れるようになったら本当に素晴らしい。鈴木さんの野菜、黒田さんのリンゴ。土から生まれたものが教えてくれることは限りない。

深まりゆく秋、おりじん冬号をお届けします。ご意見などをお寄せいただければ幸いです。

(望月)



初冬のゆい郷

「1年もかかってしまった」という私の言葉に周りから「1年でどこまでやったの?」と言われました。考えてみればそういうことかなと…(笑)。そのくらい無我夢中で何度も通い詰めたのです。当初は家具の製造販売がメインでしたが、途中から先方の提案で、まずアルミサッシの販売施工でスタートする方向に変わりました。一度に大きく投資をするより、比較的风险が小さいもので、スタートしてみることで、何より「野崎に失敗させたくない」という意向に沿った形になりました。

ミャンマーのアルミサッシ市場は、安かろう悪かろうの典型です。

①雨が強い時は室内に雨が入るのは当たり前

②ペアガラスはほとんど普及しておらず、クーラーは常にかけて放し

③外の音がよく聞こえる(防音性が悪い)

④窓枠の取付けが悪く、安全面に問題がある

その上、窓の大きさにあわせてサッシを切ってはめ込むという施工方法は日本の40〜50年前のものという状態。住宅用のサッシは多くをチーク材で作っている、なぜアルミサッシを使わないのかと聞くと「アルミサッシは雨が入るから、木の方がいいんだ!」と言うのです。これはまずアルミサッシの概念を変えるところからスタートしなければならず、並大抵のことではないぞと思いました。

アルミサッシはインドネシアで生産した型材(アルミサッシの原材料)を台湾で組み立てミャンマーに送り

より真剣に・活発に…

明るくなった取締役会。

「キャッシュレスにしましょう」と発言したのは公認会計士の山本先生。「それは無理です!」キツバと幹部社員が言い切りました。しかし「キャッシュを扱ってそれにさかれる人手と時間は少なくありません。業務の効率化を図ってください!」の反論を皮切りに場は気に活発になりました。

これはある日の取締役会の様子です。キャッシュレスとは会社で現金を置かないという提案。小口精算のために現金を置いていましたが、その必要性についての討議です。

取締役会は取締役4人、監査役1人、公認会計士2人、弁護士1人、幹部社員5人の計13人で構成。以前に比べ本当に活発になり、熱くなり過ぎて時には大きな声が飛び交うこともあります。が、それは会社を想う真剣さの表れ、時折メンバーを替えながら今後も四季工房をより良く改革していきます。(管理本部 羽生田)



右から、塩谷監査役、遠藤弁護士、尾形公認会計士、山本公認会計士、小井土非常勤取締役、それに社長をはじめとする社内の取締役会参加メンバー。



デザイナーの日光氏立会いのもと、ミャンマーの社長と合併事業スタートの調印。

ます。サッシに組み込むガラスはタイ製のものをミャンマーに輸入してペアガラスを製造するという方法をとります。ペアガラスの製造を施工会社がやるのは日本国内でも珍しいのです。私たちの会社はサッシを供給してくれている㈱トヤさんの全面的な協力があって可能になりました。

さらに宮城の㈱金直建窓さんにはビル用サッシを取り付ける際の溶接技術で協力していただくことで、チームミャンマーがいよいよ船出の時を迎えることができました。現在アルミサッシと加工機械の発注が終了し、スタートは12月中旬頃と決まりました。

ミャンマーで事業をスタートするにあたり、一番に必要なのはサッシを買ってくれる顧客の確保です。しかし

墨付けと手きざみのできる、本物の大工を育てる

「大工育成塾」研修旅行を開催しました。

日本の伝統建築を担う大工が急速に減っている中、当社では2000年より手きざみのできる大工棟梁を育てようと大工育成制度を設けてきました。その結果、当社の現場で棟梁として活躍している大工さんが4名、棟梁の下で職人さんとして一人前に活躍している大工さんが5名誕生しています。そして20名弱の若手が現在棟梁を目指して修行中です。

月1回「大工育成塾」を開催し、各回テーマを設けて社員大工の指導の下、大工技術の習得を図っています。

7月には社長の発案で懇親旅行を行いました。メインは裏磐梯登山。途中で、社長は日本の山林が抱える問題を特別講義。「ああ、このあたりは人が植えた木だね。山というのは、人が手を入れなければ荒れてしまう。最近の日本の山は人



上／裏磐梯の山登り。道中、社長の特別講義! 中左／鉋の刀の調整は必須の大工技術。 中右／今はほとんど使われなくなった大工道具「ちょうな」の使い方を指導。 下／月1回の育成塾は塾生同士の交流の場。

ミャンマーで流通している中国製のアルミサッシに比べておおよそ7〜8倍の値段になるだろうものを果たして買ってくれる建設会社やゼネコンはあるのだろうか? 価格は高くとも「売る自信がある!」とミャンマーの社長は言っていますが、そんなに簡単ではないと思っていた方が良さそうです。

またサッシを取り付ける開口を予め建物に開けておき、「開いているところに合わせてサッシをつくれ!」というミャンマー方式を改め、サッシのサイズに合わせて寸法通り建物の枠を施工してもらわなければなりません。それが技術的に可能になるまでは、大きかったり小さかったりする枠を、削ったり埋めたりしなければならなくなるのは目に見えています。そんなことをして採算が合うのか? 課題は山積みです。

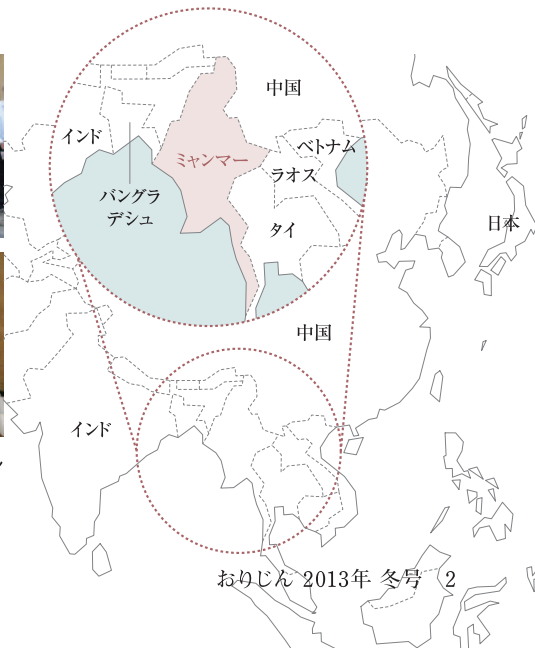
それでも雨が入らない高品質なアルミサッシをミャンマーに定着させるのが、私たちの使命だと思ってやり遂げる覚悟です。

諸々の課題があるチームミャンマーですが、次々と出てくるであろう課題を乗り越えていくからこそ、海外事業は面白いのだし、何よりミャンマーで日本製のアルミサッシを販売施工するというのは初めてのことで、まずワクワク楽しみながらやってみようと思っています。

次回以降、随時進行状況をご報告することになります。

の手が入らないから荒れ放題の所が多いのだよ」また、夜のバーベキューの際は、「今ね、育成塾を全寮制にしようと考えているんだ。2〜3年生までは全員寮に入ってもらって生活を共にする。その後は、部屋を借りてもらって自立し嫁さんをもろう準備をする(笑)」育成塾の未来を語る社長に、塾生たちは熱い眼差しを向けます。その後は、一人ひとりの塾生たちと話したり、棟梁との懇親を深めました。

この「大工育成塾」はさらに1000名を目標に拡大発展を目指しています。制度をつくった当初は志半ばですが、めてしまう若者も多かったのですが、今はやめる若者はほとんどいなくなりました。今後はより若者同士支え合える体制をつくって伝統構法を担う大工を育成してまいります。



左／チームミャンマーのメンバー。 右上／ミャンマーの社長が郡山本社へ。横断幕はミャンマー語で「お会いできて嬉しいです」 右下／来日したタイの社長夫婦(フジレストラン社長)とミャンマーの社長との夕食会。

テレビCMを開始しました。

四季工房の家づくりをより多くの人に理解していただきたい。

当社の家づくりに欠かせない「広がりの間取り」「職人の仕事」「木材の天然乾燥」を3篇のCMに仕立てました。11月中旬より福島県・宮城県の各局のテレビCMで放映されています。栃木県でも来年から放映を予定しています。当社ホームページでも公開しておりますので、ぜひご覧ください。



天風会「心身統一法 研修会」に参加して

那須連山を眺望できる西郷村の麓で、今年で3回目となる心身統一法研修会が開催されました。四季工房では社員教育の一環として、天風会が主催している研修会に積極的に参加しています。9月6日～8日までの3日間にわたる研修会では、全国から約170名(延べ340名)の参加者と共に、心と身体が幸福で健康であるための「心身統一法」の実践方法や「笑い」と「プラス思考」の大切さを学びました。参加した社員からは「貴重な体験をした」、「もっと積極的にになれるよう自分を変えていきたい」等の声が多く寄せられました。

社員の一人ひとりに生き活きた豊かな人生を歩んで欲しいという社長の想いから実現している研修会への参加。ここで学んだ積極的な精神を各自が日々の生活の中で実践し活かしていきたいと思っています。

天風会とは

公益財団法人天風会は、昭和37年3月、現厚生労働省より設立許可された公益法人です。

大正8年、中村天風は自らの体験を重ねて人間の心と身体の相関関係を科学的に考察し、人間に本来備わっている「いのちの力」を充実させ、心と身体の真の健康を確立する方法として「心身統一法」を創案しました。

天風会は幸福を増進するための理論と実践的方法の研究と普及に全力を注ぎ、進んで人類の進化と向上をはかることを目指しています。



試してみてください

快適な バスタイムのために

お風呂をきれいに使う
ちよつとしたコツ！

檜ハーフユニットバスや檜風呂(ほの香)を使用している方々から、手入れの質問が多くあります。そこで定期的にメンテナンス体制を整え、また安価にできる工夫をしています。

同時に、鏡や檜の板の汚れを気にする方に試していただきたいことがあります。
①洗い場で頭や体を洗う際に、鏡やカラン(蛇口)にあまり近づかず、イス一個分後ろに下がって使用すること。
②立ってシャワーを使わず、なるべくイスに座ってシャワーを使うこと。こんな簡単なことでお風呂のカラーン(蛇口)や鏡に汚れがつきにくく、格段にきれいになります。普通のユニットバスをお使いの方にも是非おすすめです。

窓を開けない。これが冬の換気

冬の入浴後に窓を開けて換気すると、浴室の暖かい空気と外の冷たい空気が交わり、かえってカビ発生の原因となります。冬は窓を閉めたまま、入口の引き戸(ドア)を開けて、



室内の乾燥空気を浴室に入れて乾燥させましょう。浴室をカラッと保ち、カビを防止するの二番の方法です。

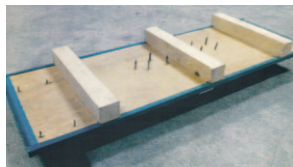
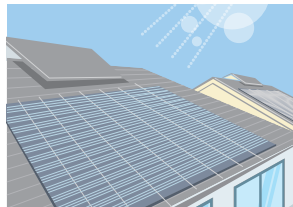
太陽光発電はぜひ 四季工房にご相談 ください。

四季工房では太陽光発電パネルを野地板にクギ留めするのではなく、直接垂木に留める方法を徹底しています。

最近太陽光発電を設置したいというご依頼が多くなりました。しかし、屋根(下地板)を釘が貫通する普通の施工法はエアバスの家には適していません。設置をご検討の際は必ず私共に二声かけてくださるようお願いいたします。

太陽光発電設置についての注意点 (野地板にクギ留めする施工方法の場合)

- エアバス工法の場合、クギが通気層を貫通すると、屋根面の冷たさが通気層に伝わってしまい、結露の原因となります。
- 雨漏りの原因となることがある→全国的にソーラーパネルが原因での雨漏りが多数報告されています。
- 野地板に穴があくので、気密性が失われがちとなる。＝エアバス工法の性能が落ちる可能性大です。



野地板を裏から見たところ。クギが出ているので結露や雨漏りの原因となる。

会津坂下町 雪下様邸

磐梯山を

ランド
プラン
(外回り)

眺める家

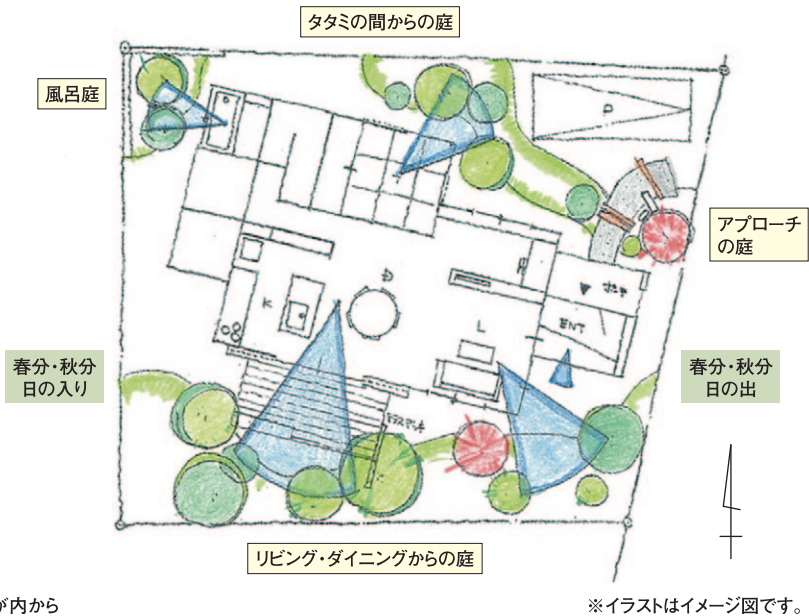
当社の家づくりの考え方に共感され、敷地に対して斜めに住まいを配置して建築された会津坂下町の雪下さん。磐梯山を仰ぎ見る立地を活かし、和室からの磐梯山の眺めを第一に考えて外回りを計画しました。9月に完成したばかりですが、「外とのつながりが自然と感じられ、部屋が広く見え快適です」と嬉しそうにお話ししてくださいました。



タタミの間からの庭
和庭プラス紅葉が、磐梯山をより一層引き立てています。



経年変化を楽しめる自然石を北と南の庭に配置。統一感のある外回りです。



アプローチの庭
上／アプローチは、住む人と家を訪れる人が一番目にする場所。玄関ポーチと同じ素材で仕上げることで、一体感を出しています。
下／玄関の窓からも眺められる和庭。来訪者を優しく迎え入れます。

※イラストはイメージ図です。

リビング・ダイニングからの庭

右・中／全開サッシ+デッキ。視界が内から外に広がり、室内からつながる広いデッキは子供さん達の良い遊び場だそう。
下／雪下さんご家族。「理想の家に暮らせて幸せです。」(平成24年12月お引き渡し)



誌上セミナー

Vol.1

家と外回りは一緒に考える より自然に 触れ合うことができる 豊かな住まいを つくるために

自然を身近に感じながら心豊かに暮らせる家にしたい…多くの人が願う住まいのあり方ではないでしょうか。

私たちは敷地に対して住宅をやや斜めに配置することをおすすめしています(上のイラスト)。真南ではなくやや南西に向けて建てるのです。すると冬の陽射しを午後の遅い時間まで室内に取り込めるようになります。自然の力で冬暖かい家になります。反対に夏は陽射しで暑くなってしまうのを防ぐため、広葉樹を中心に木を植えて、夏の強い陽射しを遮り涼しい家に。

さらにこれらの植栽は、窓からどう見えるかを考慮して配置します。室内から外へ視界が抜けるので実際の坪数以上の広がりを感じられます。また斜めにすることで空いたスペースは物置きを置いたり駐車場として有効に活用できます。

家づくりは最初から外回りと一体に考える。これにより、太陽熱・風などの自然の恵みを活かし、また緑や自然を身近に感じられる、豊かな暮らしが実現します。

震災から2年半： 仲間と共に頑張っています！ 石巻の職人さんをお訪ねしました。



石巻の今

9月の石巻の海は穏やかでした。しかし、沿岸の住宅地には雑草が生い茂り、積まれたままの瓦礫と車、津波で家の中身を抜かれたままの住宅が点々と残り、静けさが町を支配していました。運転席の銭谷佳晃さん(四季工房・石巻出身)が「震災前は活気のあ

震災直後

犠牲者が多かった大川小学校のある釜谷地区にお住まいの千葉さんと狩野さんは消防団の一員として行方不明者の捜索に加わりました。元氣



後列左から時計回りに 協和木工所 上杉敏之さん(建具)・マルキ工業 狩野史史さん(板金)・千葉左官 千葉勝明さん(左官)・金直建窓 赤岩秀晃さん(サッシ)

は出来ませんでしたでしたが、行くだけで皆さんが安心した顔に変わります。職人として頼られていると実感し、一刻も早く元通りの仕事をしなければと思いました」

四季工房の支援

震災後すぐに野崎社長と社員の方が駆け付けました。「足りないものは？」「困っていることは？」1日おきに食料や衣類、時には水を積んだトラックも届きました。物資は上杉さんを起点に職人さん仲間に行き渡り、トラックはそのまま工事に使われました。「あの時の気持ちは言葉に表せません」皆さんが大きく頷きました。

1ヶ月後、職人さん仲間と御家族を乗せた大型バスが郡山市郊外の「月光温泉」に着きました。風呂にも入っていないという方々に少しでも休んでもらおうという思いが形になったのです。この申し出に上杉さん達は「みんなが大変な思いをしている時にそんなことをしているのだろうか？」と迷いました。しかし野崎社長は「下ばかり見ていてはダメ。前に進むために来なさい」と強く背中を押しました。実際、手足を存分に伸ばしてお風呂に浸かり、出来立ての料理を食べたのは実に1ヶ月振りで、家族や仲間の表情が和らぐのが分かったと言います。そして何より嬉しかったのがホームセンターで必要な道具



OBの広場 あの人、この人 このお店

果樹農家経営——リンゴ・桃 家を建てた会社が「寄り添ってくれている」 という幸せを感じて暮らしています。

黒田武さん・恭子さん(伊達郡国見町)

東北道国見インターを降りてすぐに広がる黒田さんの果樹園。穏やかに陽を浴びたリンゴが収穫を待って薄く赤らんでいました。リンゴはもちろん桃やサクランボも甘くて評判なんだそうです。ちよつとシャイな奥様(恭子さん)と共にお話を伺いました。18年前に四季工房が建てたお住まいはリビングの大きな吹き抜けが開放的です。

今でも「おりじん」をお読みになりますか。恭子：もちろん欠かさず読みます。(家を建てて)もう18年も経っているのに



今だに「おりじん」や各種サービス券を送ってくれるので「忘れられていないんだなあ」と嬉しいです。

武：家を建てた後はどうですか？「なんて電話をくれるものの、次第にそれも無くなるのが普通でしょう。それに比べ四季工房さんは今でも気にしてくれ、つながりを実感しています。

18年前四季工房に決めた理由は。

恭子：それまでは昔の農家の造りだったので「そろそろ」と思っていた時、四季工房のセミナーに参加する機会がありました。「夏涼しく冬暖かい家」に

惹かれ、その旨をアンケートに記入した直後営業の方から連絡があり、野崎社長と共にお出でになった早業とにかくビックリしました。

武：何回も足を運んでくれてすごい熱弁だったよな。目をまん丸にして…。

それは今もそのままです…。

ところで住み心地は如何ですか。

恭子：さすがに家族の状況が18年も経てば建てた時とは違います。今はリフォームのことを時々話題にしています。今度改めて来てください。(同行の佐藤明子さん(四季工房福島)大きく頷く)

ところで武さんは農業一筋ですか？

武：そのつもりで農業高校を卒業したのですが、それでいいのかという葛藤があつて地元大学の経済学部に進みました。当時は農業以外の職業を選べないわけでもなかったのですが、祖父や父が守った「土地や畑とのつながり」を自分が簡単に切れないという思いで農業を継ぐ道を選択しました。

それが26歳の時の決断ですね。今はどんな思いをお持ちなのでしょうが。

武：農業は自然との共存です。リンゴの季節は眠れない夜が続きます。無事収穫をするまではとつともなく長いトンネルを歩いているよう。勿論やり甲斐もたくさんありますよ。単純作業に見えて農業は日々ステイジアップができます。どんな小さなことでも自分でやり遂げなければならぬこと



を買い揃えられたこと。これが本格的な仕事の足掛かりとなりました。

仕事が出来る喜びを 噛みしめて

お話が淡々と進む中、どの言葉にも凜とした強さがあり、最後はこんな言葉で締め括ってくださいました。「自分らは幸いにも家族が無事で仕事も再開できました。つまり生かされているということ。これからは、四季工房をはじめた皆さんの方からしてもらったことを仕事はもちろん何でもいいから返すようにします」「震災後心が豊かになったように思います。感謝の意味が全然違う。この経験を通してとにかく考えなさいと子どもたちにも言っています」「四季工房さんの周りの皆さんに宜しくお伝えください。私たちは元気で頑張っています」帰りの車中「震災後OB様の復興ができたのはこの職人さんたちあってこそだと実感しました。すごい力をもらいました」と銭谷さん。全く同感です。

(リポート／望月由美子)

御礼

石巻地区の支援に際しましては、関係会社及び個人の皆様、そしてエアバスグループの皆様からの浄財を使わせていただきました。紙面をお借りして改めて御礼申し上げます。有難うございました。(野崎)



右／11月収穫をむかえたリンゴ。(佐藤明子 撮影)



左／武さんと次男の壘さん。

は苦しみでもあり、その何倍もの喜びを得られます。だから作物が無事にお客様に届いた時の「任務を遂行できた！」という満足感言葉では言い表せません。

恭子：(キツパリと)農業が無くなったらどこの国もダメになってしまいうでしょう。だから誰かがやらなきゃいけない。農業人口が減少している今、それをずっとやり続けているこの人は偉いと思う。(武さんのお顔がパツと輝きました)

私たち(カメラマンを加え3人)はお土産にリンゴジュースを戴きました。リンゴ果汁100%の自然な甘さが喉を通る度、黒田家に吹いていた爽やかな風を思い出しました。

(リポート／望月由美子)